

| 本賞 | 岩永 勝(いわなが まさる) 氏
(Dr. Masa Iwanaga)



国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター(JIRCAS) 理事長
国際とうもろこし・小麦改良センター(CIMMYT)元所長 / 日本
1951(S26)年8月8日生まれ 64歳(7月29日現在)

主研究分野: 作物多様性の保存と利用、国際農業開発研究

受賞理由:

生物資源の保存活用研究に従事し多くの業績を上げ国際的に高い評価を受けている。

海外国際農業研究機関で30年近く活躍した。特に2002年には「緑の革命」の功績によりノーベル平和賞を受賞した国際とうもろこし小麦改良センター(CIMMYT.メキシコ)の所長に国際公募で選ばれ、財政難の組織を再建し、長期研究戦略を設定、職員数800人を超える世界で最も優秀な国際研究機関へと飛躍させた実績は世界的に高い評価を得た。

長きにわたる国際的な研究活動での広汎な人脈を培い、世界的に影響力を持つ農学研究者及び指導者として2006年には世界食糧賞から特別感謝状を受賞。国連世界食料安全保障委員会のパネラーなど国際機関や国際会議において理事に就任するなど重責を果たしている。

| 佐野藤三郎特別賞 | 増本 隆夫(ますもと たかお) 氏
(Dr. Takao Masumoto)



国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 地域資源工学研究領域 領域長 / 日本
1957(S32)年11月13日生まれ 58歳(7月29日現在)

主研究分野: 排水工学、農業水文・水資源学、水と食料

受賞理由:

高度な国際協力の達成に寄与。

低平地帯の排水改良、排水問題を検討し排水施設の最適規模研究では雨量計や排水施設の配置、規模計画手法を開発し、現場での計画管理に直結する技術開発に多数研究実をあげ、水田の洪水防止機能評価法の開発でも先駆的で高度の研究業績をあげた。

アジアモンスーン水田地帯にも対象を広げ、国際河川メコン河の研究では4研究機関を率いるリーダーとして世界的情報発信が可能な研究成果体制の構築を図り、行政の事業実施指針・計画基準に反映高く評価された。

| 佐野藤三郎特別賞 | マーシー・ニコル・ワイルダー 氏 (Dr. Marcy Nicole Wilder)



国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 水産領域 主任研究員／アメリカ

1965(S40)年12月30日 50歳(7月29日現在)

主研究分野:食糧増産、安定供給、養殖技術の開発、国際協力
受賞理由:

エビ類の研究により、稚エビの培養方法で多大な成果を上げ、学会産業界で高い評価を得る。ベトナムの国際プロジェクトの主担当者として淡水エビの養殖産業の発展に貢献。屋内型エビ生産システムの開発と普及による安全安心な養殖の実現をした。

バナメイエビは世界の養殖の80%を占め、養殖場の造成による環境汚染、高密度養殖による病害、大量薬物投与などの解消に屋内型エビ生産システムを企業と共同開発した。妙高市「妙高ゆきエビ」を商業ベースに乗せ、モンゴルでの養殖も進んでおり、多くの発展途上国において、動物性タンパク質の増産安定供給が期待できる。

| 21世紀希望賞 | 宇賀 優作(うが ゆうさく) 氏 (Dr. Yusaku Uga)



国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構,
次世代作物開発研究センター 基盤研究領域 育種素材開発ユニット 上級研究員

／日本

1974(S49)年11月20日 41歳(7月29日現在)

主研究分野: 農業生産技術と国際研究(耐干性 稲の育種)
受賞理由:

一貫してイネの根の構造と機能に関する遺伝育種学的研究を展開し、基礎から応用に至るまでの研究に多くの成果をあげ、国際誌に論文を掲載し高い評価を得ている。

地球温暖化が一層深刻化する中、干ばつによる大きな影響を受け東南アジアでの稲作の乾燥耐性強化は喫緊の課題である。フィリピン在来品種に見いだした根の形態や構造の変異に着目し、遺伝子座を検出し、栽培稲の耐干性の向上に大きく貢献した。研究業績は基礎研究にとどまらず世界の稲作の安定化に貢献し今後の研究の進展が期待される。